

2012年9月8日(土)開催 | 基盤教育研究分科会

## 成人学習理論の基礎

成人学習理論の基礎参加報告 (レポート:HRDM会員 左口知克)

### ◆概要

「成人学習理論」は 2009 年から毎年開催されている定番の人気シリーズです。今年度は原点に戻って、基礎を体系的に学び直そうという目的で、4時間拡大版として開催されました。



講師は、4年間継続してくださっている東海大学チャレンジセンターの堀本麻由子氏。参加者は23名。うち、HRDM セミナーに初参加の方が6名。遠くは奈良から参加された方もいらっしゃいました。また、昨年までの「成人学習理論」に参加されたことのある方々も数多く参加されていました。

アジェンダは次の通りです。

- I おとなの特性を踏まえた学習理論
- II 成人学習者像と学習支援
- III 学習支援者の役割と学習方法
- IV 経験学習理論

以下、「成人学習理論」セミナー初参加者の視点から印象に残った点をピックアップしてご報告します。

## I おとなの特性を踏まえた学習理論

堀本さんから出された最初の問いは、「なぜおとなの学習を子どもの学習と区別する必要があるのか？」でした。

子どもの学習は「教える (teaching)」モデルであり、おとなの学習は「自ら学ぶことを援助する (helping (to) learn)」モデルであるという違いが説明されました。前者の学習モデルを「ペタゴジー (pedagogy)」、後者のそれを「アンドラゴジー (andragogy)」と呼びます。

1960年代にマルカム・ノールズが発表したこのアンドラゴジー論が成人学習理論の出発点であり、かつ今日も進化と深化を続ける理論と実践の中核にあるコンセプトであると理解しました。

続いて、自己紹介のワークが、用意された4つの質問への答えを利用して行う形で行われました。参加者からは、経験、価値観、内的誘因、人的つながり、仕事、課題解決など、さまざまな視点からの自己紹介がありました。「おとな」になって久しい私には当たり前となっているこれらの事柄が、「成人の特性を活かした学習援助論」の中核にあるのだな、とあらためて感じることができました。



## II 成人学習者像と学習支援

P.クラントンを中心に、アンドラゴジー論を批判的に再検討することで先へ進んできた重要な研究成果が続々と解説されました。

自己決定性の再検討、剛構造としての経験、意識変容の学習、学習ニーズの多様

性・個別性といったテーマです。

私は、こと学習という領域に絞ったとしても、(日本企業に勤務する日本人)サラリーパーソンが、自己決定性が高いなどとは素直には言えないのではないかと感じてきました。ところが、今日、堀本さんから、「自己決定性は成人誰もが有している特性ではなく、めざすべき到達目標である」「自己決定型学習は学習者が歩む変化と成長をもたらすプロセスである」だから自己決定性とは、つまりそれだけ高度なものである、と解説を受けて疑問が解消し、スッキリした感じです。

佳境に入り、参加者から数多くの質問が出され、活発な意見交換が行われました。そのために時間が足りなくなり、「人生の河」という予定されていたワークは中止になったのは心残りでした。このあたりは、私も研修講師をやっていて常に直面するジレンマですが、これこそ一方通行でない「成人の特性を活かした学習援助」ならではのたいご味ということなのでしょう。

### Ⅲ 学習支援者の役割と学習方法

成人教育者の役割として、他者決定型(専門家、教授者など)、自己決定型(ファシリテーター、メンターなど)、相互決定型(共同学習者、省察的实践者など)の3つの類型が解説されました。

また、学習者本人のニーズだけに対応すればいいとは言い切れないことや、経験は学習の促進要因にも阻害要因にもなりうる、といった補足がありました。

「ふり返り」こそが、研修の根幹であると日頃実感している研修実践者の端くれとしては、たくさんのお土産をいただいた感触です。

### Ⅳ 経験学習理論

短く2回目の休憩を取った後、5時過ぎに、本日最後のテーマ、経験学習理論について解説とワークが行われました。

コルブの経験学習論、バーネットらによる批判的検討、神戸大学・松尾教授の「育て上手な指導者の指導方法」についての解説の後、次のテーマでグループワークとクラス発表を行いました:



ある企業で「育て上手な指導者の指導方法」を利用して来年度から OJT を行う事が決定した。そこで、成人学習理論の考えを活かした OJT 指導者に対する研修の企画あるいは説明の仕方を考えよ。

成人になってから短い人でも 10 年、長い人だと半世紀に達しようかという経験を積んだおとなたちの学習の場ですから、まさに議論百出です。

学習者の経験と成人学習の理論とをどう組み合わせるのか、経験の活用と解凍機会をどう組み入れるのか、経験とふり返りのプロセスをどう設計するのか、組織が持っている経験やニーズをどう活かすのか、といったさまざまな視点から具体的なアイデアが発表されました。

気がついたら、時計の針は、予定の 6 時をはるかに過ぎていました。楽しかったです。

#### ◆来年に向けて

堀本さんは現在、マルカム・ノールズの「The Adult Learner: A Neglected Species (4th ed.)」という本の翻訳を進めていらっしゃるそうです。出版は、2013 年秋予定とのこと。そこで、来年の成人学習理論のセミナーは、その本を中心にまたやろうというお話しが堤さんからありました。乞う、ご期待。

**開催日** 2012 年 9 月 8 日 (金) 14:00~18:00

**学習テーマ** 成人学習理論の基礎

**学習目標** 1) 成人学習理論(アンドラゴジー論、経験学習論、意識変容の学習論、省察的実践論)の概要を自分の言葉で説明できるようになる。

2) HRD と成人学習理論の関係について、自論を述べるができるようになる。

<b>講師</b>	東海大学 チャレンジセンター 講師 堀本真由子氏
<b>会場</b>	<p>明治大学 駿河台キャンパス 紫紺館 S4会議室</p> <p>千代田区神田小川町3-22-14</p> <p><a href="http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html">http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html</a></p>
<b>定員</b>	35名 ※最低催行人数5名。開催1週間前までに、お申込人数が最低催行数に満たない場合は、中止とさせていただきます。予めご了承ください。
<b>参加費</b>	会員：¥3,000-(税込) 非会員：¥9,000-(税込)
<b>開催概要</b>	<p>前半は、成人学習理論の基礎的概要について講義を中心にすすめる。</p> <p>紹介する主な理論は「ノールズのアンドラゴジー論」「コルブの経験学習論」「メジロ―意識変容学習理論」「ショーンの省察的実践論」を予定している。</p> <p>後半は、「コルブの経験学習論」に焦点をあて、近年の日本の研究者たちによるコルブの経験学習の引用方法について検討し、建設的批判を行う。</p> <p>検討方法としては、小グループでの話し合いを実施する。話し合いのテーマは、「研修における振り返りの方法について」を予定している。前半で学んだ成人学習理論の特徴を踏まえながら話し合いを行う。</p> <p>特に、指定テキストはないが、以下の参考文献を事前に読んでおくと、講座の内容がより深く理解できるので、時間のある方は事前購読されたい。</p> <p>■三輪建二『生涯学習の理論と実践』財団法人放送大学教育振興会、2010年、2600円</p> <p>(特に、第3章成人の学習論(1)アンドラゴジー、第4章成人の学習論(2)省察的実践論、を読むことをお勧めします)</p> <p>■松尾睦『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社、2011年、2000円</p> <p>(特に、第二章経験から学ぶ、を読むことをお勧めします)</p> <p>■写真等記録情報の使用許諾のお願い</p> <p>小会では、広報活動及び会員サービスの向上に活用するため、ビデオ撮影、音声収録、写真撮影、受講アンケートを実施しています。これら映像、音声、画像、コメント(以下、記録情報)は、小会の関わるWebコンテンツ及び紙媒体の配布資料等に活用させていただく可能性があります。</p> <p>小会活動へのご参加は、記録情報の活用にご承諾いただけたものとさせていただきます。</p>
<b>支払方法と領収書発行</b>	<p>■支払方法：当日会場受付時に現金支払</p> <p>■領収書発行：領収書をご要望の方は、お申し込みの備考欄に「領収書要」と、ご記入ください。会社名(学校名)欄にご記入いただいた宛名で用意いたします。なおそれ以外の宛名をご希望の方は、お申し込み備考欄に、宛名を明記ください。</p>

申込後のキャンセルは、早めにご連絡ください。開催の 5 日前より以下のキャンセル料金が発生いたします。なお、キャンセル料に関しては、後日請求となります。

- ・開催5日前～3日前のキャンセル料は、参加料の 50%
- ・開催2日前～当日のキャンセル料は、参加料の 100%
- ・連絡なしの不参加は、参加料の 100%